

北播磨新地域ビジョン検討委員会・第2回起草部会 議事録要旨

1 日 時：令和3年3月18日(木)14:00～15:30

2 形 式：対面会議

3 出席者：

委員：内藤会長、田中委員、松本委員、奥貫委員、山本委員

県側：上田局長、野村副局長、小林班長

4 内容

議題について協議

[会長]

・最初に議題1、北播磨新地域ビジョン構成の第2章「北播磨地域の現状(素案)」及び将来像を考える際のポイントについて事務局より説明をお願いします。

[事務局]

・議題(1)について事務局から説明

[会長]

・北播磨の現状で、今後の将来像を描いていくときの土台となるかと思う。先ず、項目一覧の第1節から第3節までで、ご意見をいただきたい。

[会長]

・第1節で田畑の面積が書いてあるが、北播磨の特徴は、疎水が沢山あることだ。三つの疎水があり、東播磨も含め、9,150ヘクタールに水を送っている。3疎水を合計すると、343キロメートルあり、淡河の淡山疎水は、世界かんがい施設遺産になっている。それに対してため池がつながっており、兵庫県のため池数は日本一で、そのほとんどが東播磨と北播磨にある。田畑の面積が大きい、降水量が少なく、保水のため、ため池が非常に多く、これも北播磨の特徴だ。

[委員]

・現状を事実として説明をすることが一番大事で、それが強み、特徴、北播磨らしさであり、その強みが大潮流と掛け算し、どのようなビジョンとして打ち出しができるかということ、意識して読み進めるための記載が必要ではないか。事実の記載と合わせて、テクノロジー等の大潮流とかけ算していくと、それが強みに変わっていくということを意識して読んでいけるような工夫があれば、楽しく読めるのではと感じている。

[会長]

・人口が減っている際に、30万都市を目指すと言われていた。合併しなくても北播磨を一体とし、市町村の独自性はそのまま自治体の運営を行えば可能だ。実際、定住自立圏構想は進んでいる。

[委員]

・地域の現状がよくわかった。例えば山田錦は伸びていて、そろばんや播州織は、下がっている。これは、社会が求めるものに呼応していると感じる。その中で改めて、「減っている」とするのではなく、そろばんや播州織というものに目を向け直す方向性を示すような書き方をすることが必要ではないか。様々な社会的サービスについては、全県と比べて低いところは県のレベルに近づけるよう、全県より高いところは現状維持することになるが、北播磨の特徴が色濃く出ている部分については言及し、それが将来にどう繋がっていくかということが考えられる工夫がいる印象を持った。

[会長]

・有機農業について触れたほうがいいのではないかと。先日、農水省が、有機農業の面積を2050年までに国内の農地の25%にあたる100万ヘクタールに拡大する案をまとめた。2017年の40倍以上に増やすことになる。東京には、オーガニックのレストランや販売店がいろいろできているが、フランスから農産物を持ってきている。日本は遅れているので有機農業について触れてほしい。もう一点。林業について、北播磨地区は人工林が29.4%と少ない。これは、逆に取れば、自然林が多いということで、広葉樹が沢山ある。鳥が多く生態系が保たれている。里山開発をして、都会の人を大規模に集客できる施設ができるのではないかと。様々な可能性があり、生物多様性という面でも良い事だ。林業から見れば人工林が少ないのはデメリットに見えるが、メリットにもなる。自然林を活用すれば、森林浴など森に親しむことができ、癒しの空間となり、都会の人を呼ぶことができるのではないかとと思う。

[事務局]

・今、会長から30万都市、定住自立圏構想の意見、委員から衰退している播州織産業等に目を向けるような工夫の意見や、特徴を強みにして打ち出すような意見をいただいた。意見は確かにその通りで、いかに反映していくかだが、構成上、現状、県で取りまとめている潮流の話、そして、アンケートなどでの県民の方の意識、そういったものを踏まえた上でどのように考えていくのかを第5章で整理して、将来像を作っていくという構成になる。そのようなイメージなので、いただいたご意見は、第5章のどのような未来を描くのかという時、「こんなふうに地場産業は発展して欲しい」とか、森林のことについても「自然林を活用して欲しい」ということを織り込んで、めざしたい姿にして表していくのが5章と事務局では考えている。いただいた意見は5章のところで生かしていきたい。ここに記載すると少しわかりにくい形になる。特徴としてももう少し評価を入れていいと考えている。産業のところであれば「二次産業が多い」と記載しており当然強みなども書けるが、将来的にこんな風になって欲しいというところは5章で整理できたらありがたいと思う。

[会長]

・その辺も踏まえ、ここで書き込んでほしいと言うのではなく後で問題にならないようなところは省いても、将来像で関わってくるところは、伏線のような記載があればということで申し上げた。

[事務局]

・ストーリーとして展開しやすくなるように、少しネタふりをしておくということと理解した。議論を進めていく中で、第5章のところで議論になったときに、ポイントは絞り込めてくるかと思う。方向性もこうあって欲しいというのが出てくるかと思う。それを踏まえながら、この第2章のところを見直し、そこで議論になりそうなことは加筆をし、少しネタふりをするような形での書きぶりにしていきたいと思う。

[会長]

・後半の議題と重なる部分もあるかと思う。

[委員]

・統計資料のため、ここでは人口動向、産業構造のようなことが中心になっていると思う。ただし、その中でも女性の若い層の流出や、シニア世代率の増加、産業構造が農業を中心になっているというようなこととの関連、現状はここではまとめとして示すことができるのではないかと。それから、外国人の増加、これは将来にわたって考えていかなければならない様々な文化の差をどう見ていくのかと、課題に繋がっていくことでもあるので、ここでは大きな統計の値からどういうことがいえるのか、或いは

どういう課題が今あるのか、ということを出出していくことになると思う。

[委員]

・先ほど、事務局が言われたことについて、今の5章で書くようなことをここに書くというようなことよりも、この2章のところで将来像を考える際のポイントという囲みについて議論をするのか。

[事務局]

・まず、現状分析についての意見をいただいた後に、先ほど説明したように、事務局としては、それぞれのカテゴリーで将来像を考える上で、こういうことがポイントではないかというようなことを記載している。これについて議論いただきたい。

[委員]

・ここで、現状をどのように分析し指摘するのかというようなことは、将来像を考える際のポイントも意識されるべきものだと思う。それが北播磨の強みや、そのことが北播磨の活性化に繋がるようなところをポイントとして、北播磨の活性化のための要素と繋がると、将来像を考える際のポイントとして挙げておくということが必要だろうと考える。今ここでの第1節に「魅力になるのではないか」という記載が望ましく、2ページ記載例1の「こうなるための北播磨はどのような姿か」、というよりも「現状のこういうことが何かに繋がるポイントとして強調しておくべきことだ」、という書きぶりに意識する方がいい。例えば、「増加する外国人も地域の担い手となれる北播磨はどのような姿か」とあるが、こうすると先が見えなくなってしまうが、「増加する外国人が地域の担い手となれるほどの増加がある」とか、或いは「協力関係がある」等を書いた上で、「それを生かす姿はどのような姿か」と、将来に向けた書き方がいいと思う。先ほど会長の意見にあった森林のことを具体的に言うと、例えばそういうことを意識して、「森林面積がこれくらいで自然林があることが一つの特徴で、この近隣と比較して売りに繋がる」という書き方、また、後半の歴史、伝統、文化のところを書く際は、今度は「これが観光資源として生きて、その観光資源の中で、他のところとは違う観光資源の一つとしてこういうものがあり、その観光資源を生かすためにどういう特徴があるか」ということを、ピックアップして強調するような書き方を整理すると、2章や3章と5章との関連性というのが見えてくるだろう。ポイントを書く際は今言ったことを記載するかどうかは判断していただきたいが、今のような項目はこういうことと繋がるというのを、メモ程度に記録しておくのか、編集上のメモ書きとして冊子にはならないけれどメモ書きを記録しておくか、後述との関連も全体の構成もわかりやすくなるのかなという印象を持った。

[委員]

・地勢的に、加古川がありその周辺にある播磨平野で生活をしている人が非常に多い。もちろん多可町のような地域もあるが平野部だから、基本的には林業が少ないのは当たり前だ。例えば工業が発展するのは、内陸なのに平野部の特徴がもたらす地勢に成り立っているからだ。そのような北播磨の持っている特徴も、整理しておくとうまいだろう。

[会長]

・補足して欲しいことがある。第4節の医療・介護・福祉にコロナ等の災害時の医療体制や児童虐待の現状と、第5節の教育では管内に大学がある現状、第6節での歴史・伝統・文化に、加古川の舟運、5街道文化の交差点で由緒ある地域であることを特徴として触れていただきたい。

[委員]

・北播磨地域から通勤通学を含めたどこかに向かう交通網だけではなく、域内交通として地域内の循環交通について明示することはできるのか。伏線的な意味が少し頭があり、今後、管外の移動ばかりではネガティブ要素が感じられてしまう。もしあればと思った。

[事務局]

・少し調べさせてほしい。通勤通学だとデータの的なものがあったかと思うが、少し考えさせてほしい。

[委員]

・コミュニティバス等、先ほどの30万都市の話と関わる話だ。どのように地域をつなぐのか、各々の地域が都市と繋がっている。バラバラに繋がっているのではなくて、地域の中でどう繋がっていくのか、一体感をどう作っていくのかといったことは、とても大事なことだ。

[事務局]

・前半も含め、先ほど医療体制、児童虐待、生活保護、大学教育というような話があったが、その辺のことについてデータが可能かどうか確認をし、できるだけ付け加えるような形で整理をしたい。コミュニティバスは、各市の状況を調べればわかると思うので、加えることは可能かと思っている。また、舟運、五街道の話は歴史的な話なので、記載をするよう調べたいと思う。

委員の意見で、ポイントの記載について意見をいただき、それを反映しようと考えているが、例えば、最初の1ページのところはこの通りだが、今後どのように書くのがいいのか、もしくは、書くことがいいのか書かないほうがいいのか。いわゆる備忘録的にして、本としてでき上がったときは消えている方がいいのか。どちらがいいのか意見をいただきたい。また書き方も、委員から意見をいただいたが、「北播磨はどんな姿がいいのか」というような書き方がいいのか、こういうことを考えないといけない必要があるのではないかというような、考える際にはこんなことがポイントになるという書き方なのか。またここの中にはないが、先生が言われたのは、強みというところにも力点をおきながら打ち出していき、将来的な構想の中で、こういうところと結びつくところがあるというようサゼッション的な書き方にするのか。書くのか書かないのか、書き方としては何がいいのかというようなところも意見をいただけたら大変ありがたい。

[委員]

・それぞれの書き方が違うようだが、第2章では現状把握が重要で、その現状を踏まえて将来的にも現在も強みであるということをもまず書く。それが将来を考えたときに、こういう事に繋がるだろうということだと思う。例えば具体的に見ると、第2節からは、「どのような姿か」という表現がずっと並んでいるが、例えば若い世代が住み続け子どもを産みたいと思う北播磨は、現状としてそうなっているか又はなっていないかということは書けない。書けないところに、どのような姿かと現状から問いかけをしても次には進まない。その時に、若い世代が何人位いるが増えている又は増えていない。子どもは増えている又は増えていない。先ほどの出生率が高いけれども、実数は必ずしも増えていないとの問題を踏まえ、若い世代がそうなるためにはどうするかを考えるために、問題提起として一応置いておくような書き方をする。

或いは、例えば8ページの第6の観光含めて、8ページのポイントのところの下から二つ目などは、外国人労働者を含め、誰もが働きやすい北播磨とあるが、外国人労働者が増えている。コミュニティとの関わりはこうである。そういうことができている

る又はできていない。そう考えると、例えば「第何節のこういうものに関わると外国人労働者も働きやすい北播磨が実現できるだろう」とか。或いは観光資源のところであれば、「観光資源は実際にあるが整備が行われていない」という現状であれば、例えば「整備が行われていない。しかし北播磨の特徴は宿泊ではなく日帰りが多いのは、恐らく交通網との関係もあるだろう。それらを結んだ上で、観光資源としてより北播磨の強みとして活性化していくためには、他の要素と組み合わせることによって、将来の活性化が見えてくるような期待が持てる。現状からそういう夢に繋がる要素があるという書き方が、望ましいのかと思っている。書くか書かないかというところで言うと、今のように、現状の強みとそれからの現状がこのように発展的に考えられるということを書いておくのは、30年後のことで意味があると思う。ただ、第5章と関係があるということは、事務局のメモとして記録しておく必要があるだろう。冊子の中で入れておく必要があるかどうか私は判断できないが、工夫があればいいかと思う。

[会長]

・事務局から出た点だが、私自身は読んでいき、この囲みのポイントが出てくると、すごく身近な感じがし、自分なりに少し考えたりして、双方向的なコミュニケーションができていたような感じがした。

[委員]

・委員の話を聞いていて想像が膨らんだ部分があるのだが、外国人のことや、交通網があまり発達していないことなど、それぞれの課題のようなものが点在して置かれているが、それをつなげていくと、例えば先ほどの大学があるということと、外国人とどうつき合っていくかみたいなことは、もしかしたら大学が何らかのサポートができるかもしれない。それから、外国人たちが、移動する手段をどうやって持つのかといったことと、地域交通網の話は繋がっているかもしれない。それぞれのポイントの課題や、現状を書いていくことと、それらをつなぐことによって、将来像が見えてくるように書けないかと思った。

[委員]

・委員が言われたように、強みとか魅力というものははっきり出すのが必要と思う。事実を書きながらも、推測とか意味づけというものは別に書かなければいけないが、強みや魅力を打ち出しながらそれぞれの要素、例えば外国人の方が多いとか、先生が言われた大学があるとか、そのものたちがどういう関連性があるのかというようなマップ的なものがあるいい。現状の関連性と今後こういう組み合わせでこういうふうな強みに変えられるということがわかる。もちろんその外には、外部環境という大潮流が当然あるが、文章は人によって理解力がかなり違ってくると思うので、視覚的にもわかるようなマップ的なもの、関連図というようなものがあるといいと思う。あと、その将来像を考える際のポイントで、問いかけは大事であるし難しさもある。問いの質によって読む側がすごく心折れる場合もあるし、漏れてはいけない人達というのがおそらくあると思う。だから、漏れなくダブリなくどう網羅していくのか、もし問いかけを書くのであれば、こうしたことが重要だと思っている。問いかけはとても効果があるので、あるといいなと個人的には思う。

[会長]

・今、指摘のあった件だが、問いかけの文言とか中身を1度皆さんに見てもらった方がいいかと思う。ぜひそういう機会が持てたらと思う。議題(2)に入るなので、資料について説明をお願いします。

[事務局]

・簡単に資料の説明をさせていただく。この資料の社会潮流項目概要は、将来構想に書いてあることを、単純に抜粋をして整理をただけなので、これは書いてあることだと思ってほしい。あと一番右にある留意点で、こういう潮流があったときに、将来像を考える上では、こんなことを考えないといけないのではということ、事務局として大事だと思うことを記載している。こういうところで、こんなことでいいのか、深く調べなければいけない項目があるというようなこと、もう一つは先ほどのポイントと同じだが、これを本文の中に入れるか入れないかということだ。いわゆる大潮流として北播磨の将来ビジョンを考えるときには、こういうことが考えるべきポイントになる。成果物としての文書の中に落とし込むのか落とし込まないのか。そこも意見をいただけたらありがたい。

[委員]

・今事務局が言われたのは、第3章で大潮流の説明があり、次の章でビジョン像を出していくのに何か説明を入れるということか。第3章の中で入れるかということか。

[事務局]

・第3章の中で、この潮流というものにはこういうものがある。ということになると、北播磨の将来像を考えるときには、ここに整理してある留意点というようなことを、意識しながら考えないといけないということで記載をしているが、そういうような書き方、他に着目しなければいけないことがあるのかということ。これを本文中に残したほうがいいのかどうかを伺いたい。

[委員]

・第2章に現状分析の事実を書いて、第3章は予測ではあるが、それを書いたときに、次に繋がる部分の繋がりや伏線として、どう示すかという話かなと思う。先ほども、相当分析的にもの考えてしまうと云ったが、そもそも現状の強みが、将来的に強みになるかどうかは、どうアクションしていくかによると思う。

県の将来構想試案を見るとものすごい量があるので、大潮流の中でも網羅的にこんな書くことは多分できないのではないかと。北播磨として絶対外せない、それは環境の変化として、特に追い風になるもの、オポチュニティのところ、追い風となるところは意識して抜粋して書くべきだと思う。その上で、そこに意味付け又は評価を加えるかというのは悩ましいが、意識して抜粋する必要はあると思う。どんな人も普通にその冊子を読んでわかるようにということで、意識的に抜粋が必要と思う。(副局長：特に北播磨では、この中の項目でもこういう点が大事だというような書きぶりを加えるということで良いか) 囲み方だと思う。北播磨としては、これがチャンスに変わってくる。チャンスにできる。ということが大事かと思う。

[会長]

・私もこの社会潮流はぜひ入れてもらったほうがいいと思う。というのは、これほどの大変革は過去、今までそんなに起こってないと思う。30年先を見通すということがなかったら、絵空事になってしまう可能性がある。

[委員]

・第2章の北播磨地域の現状を見ているだけで、啞然として厳しい時代を今の若者みんな生きているのだな、また今からも生きていけないのだなと思いつつ見ていた。今、会長が言われたように、ここはぜひ入れてほしいと思う。過去の30年よりも、今からの30年の方が全てにおいて変化が激しく、想像のできないような社会構造だろうと思うので、ぜひ入れていただきたいと思う。

[事務局]

- ・この大潮流の概要は、資料として入れることを考えている。

[委員]

・資料の一番右列の留意点の記載に関して言うと、30年先のビジョンを考えるために、例えば一つ例を挙げると、人口について三つの留意点が挙げられているが、一つ目の「人口の減少、超高齢化を考慮する必要がある。」の記載は、人口減少や高齢化を考慮する必要があることは当然ビジョンを考える上で重要だが、それが30年後の北播磨の活性化にどのようにメリットデメリットが想定できるかということの方が重要で、考慮するというよりも、そのメリットデメリットを意識したときの分析を踏まえる必要があるということだ。30年後のことで想定しにくいと思うが、三つ目のテクノロジーのところだと、テクノロジーの進化については織り込む必要がある。これも、このテクノロジーによって、北播磨に有益なテクノロジーというのはどういう項目で、どういうふうにメリットデメリットをもたらすかという、そういうことが多分留意点だと思う。もっとわかりやすい最後の項目の価値観と行動の変化のところであれば、「環境負荷の制約や、労働や学習の場所の制約や、定住意識の希薄化も考慮する必要がある。」という記載は、確かにこれが留意点だが、そのことによって今までは必ずしもメリットではなかったこの地域の特性というのが、テクノロジーの問題だけでなく価値感や行動の変化によって、新たな価値として近隣の大都市と北播磨との位置関係が有益に働くことを、どのように利用するのかを考えることが重要だと、留意点として書く必要があるという気がする。働き方、生き方の多様性とか、人口減少やライフスタイルの多様性等が、ここには価値や行動の変化としているから、それが北播磨の活性化のためにどのように繋がって、こういうメリットとして生きてくる可能性がある。しかし、今までの特性がデメリットになるということもあることを、考えなければいけないということが、留意点として書いておくと、ビジョンを考えるときに、2章の現状と3章の社会潮流ということもビジョンに繋がるものとして書いておくことの意味、10年後、20年後、30年後にそれぞれ、今、そういう記載をしておくことの意味が出てくるのではないかという気がする。

[委員]

・ここに挙がっている内容は、それぞれ例えば人口動向や、災害への対応や、また、テクノロジーの進化とか、或いは社会構造の変化、ライフスタイルの多様化というキーワードでしかなくて、これが課題という書き方をしないほうがいいと思う。つまり、こういうことを何とかしないといけないというような書き方になると、30年後の社会像からの問題を、どう解決するのというような方向になっていくので、私たちが示したいものは30年後の姿だから、こういうキーワードに則ったときに、将来的にこれがどのように生かされていくのか、どのように繋がっていくのかみたいなことを考えなければならない、落としてはいけないワードとして挙げていくという、とらえ方をしないといけないのかなと思う。皆さん言われていることと同じことだと思うが、そういう書き方をすることが大事かなと思う。

[会長]

・前回もこの構成について色々な意見をいただき、私も自分なりに考えてみた。大潮流というのは虫眼鏡のようなものであって、最初に第2章で現状を見て、次にこの大潮流という虫眼鏡で見て、その次にアンケート等の生活者の立場から、三つの虫メガネで見て行って、それで写ったものをトータルしながら、第5章でその地域の方向性という中で、おなじ事象なのに違った現象が出てきているというものをそこで取捨選択しながら、ビジョンに繋がるものを5章で書いていく。そういう流れのものであつ

て、この社会潮流の留意点は、虫眼鏡で見えてきそうなところなので、皆が考えても良かったらいいと思う。時間になったので終了するが、意見があれば遠慮なく、事務局の方まで伝えていただきたい。

[事務局]

・第2回起草部会を終わります。第3回の起草部会は、4月26日午後に対面式で開催を予定しているので、よろしく願いしたい。